

team hat Magazine

hat | 橋本総業ホールディングス 2025 VOL.16

テニス日本リーグ決勝トーナメントへ 3チームが挑む!

実業団の最高峰の団体戦「第39回テニス日本リーグ」決勝トーナメントが2月14日から16日にわたり東京体育館で開催される。1st、2ndステージを戦い抜いたチームが集う決勝トーナメントに、3チームが挑むこととなった。

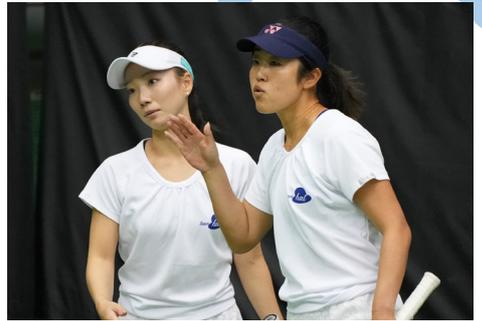
前回優勝の「橋本総業ホールディングス」女子チームは、岡村恭香が実力を上げてエースとして戦う。坂詰姫野も故障から復帰し、小畑沙織新監督が信頼を寄せる森崎可南子/小堀桃子組もあり、今回も優勝候補筆頭だ。最大のライバルとなるのは、島津製作所だろう。小畑監督は「1st、2ndとはまた違う空気感や責任感などありますが、選手がコートでしっかり戦えるようチーム力を上げて、プレッシャーを取り除きたいと思います」と気を引き締めている。

もう1つの女子チーム「橋本総業」は前回3位。ランキング的に、「橋本総業HD」「島津製作所」と比較すると落ちるのは確かだが、ベテランでエースの瀬間詠里花、シングルス2の小林ほの香、ダブルスの主軸となる大前綾希子たちが、どれだけ上位選手から勝利をもぎ取れるかだろう。順当にいけば準決勝で、2ndステージで敗れた島津製作所と対戦することになる。井上明里監督は「決勝トーナメントまでに、どこまで選手のできることを伸ばせるか。あとは、個人戦とは違う団体戦ならではの戦い方でどれだけカバーできるかがポイントになると思います」と、リベンジを狙っている。

男子チームはレッドブロック4位通過となり、厳しい戦いが予想される。河内一真がリーダーとしてチームをまとめ、新加入のデラニー ジェイク、ケガから復活した福田創策、ダブルス巧者の渡邊聖太の活躍が期待される。杉山記一監督は、2ndステージ最終戦でイカイに敗れたことを踏まえ、「ワンチャンスを取り切る力をこの2週間でトレーニングしていきたいと思います」と気合を入れている。決勝トーナメントも観戦無料。チームを応援しに会場に行こう!



岡村 恭香



小堀 桃子

森崎 可南子



瀬間 詠里花



小林 ほの香



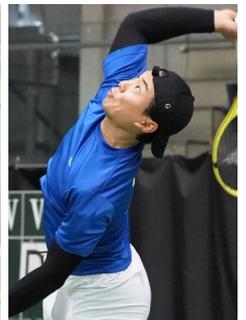
大前 綾希子



デラニー ジェイク



河内 一真



渡邊 聖太

Tennis Japan League Final Tournament	
レッド1位	橋本総業ホールディングス
ブルー3位	エームサービス
レッド2位	ノアインドアステージ
ブルー2位	橋本総業
レッド3位	明治安田
ブルー1位	島津製作所

2/15 2/14 2/14 2/15 2/16 優勝

Tennis Japan League Final Tournament	
レッド1位	伊予銀行
レッド3位	イカイ
ブルー4位	レック興発
レッド2位	ノアインドアステージ
ブルー2位	エキスパートパワーシズオカ
ブルー3位	山喜
レッド4位	橋本総業ホールディングス
ブルー1位	三菱電機

2/14 2/15 2/14 2/15 2/16 優勝

日時
 2月14日(金)▶男子準々決勝戦 10:00～、女子準々決勝戦 N.B.13:00
 2月15日(土)▶男女準決勝戦 10:00～、男子5位7位決定戦&女子5・6位決定戦 N.B.13:00
 2月16日(日)▶男女決勝戦、男女3位決定戦 10:30～、試合終了後、都度表彰式及び閉会式

会場
 東京体育館
 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-17-1

観戦無料

日本リーグ2ndステージ 女子が1位と2位、男子が4位通過

日本リーグの2ndステージが、横浜国際プールとブルボンビーンズドームで開催され、3チーム全てが決勝トーナメント進出を決めた。

橋本総業ホールディングス女子チームは、ベストメンバーで危なげない戦いぶりを見せて2戦2勝。1stステージと合わせて5勝0敗とし、レッドブロック1位通過を果たした。小畑監督は、「チームとして、しっかり勝ちきることができ、うれしく思います。1stステージの時よりもチーム力も上がり、選手一人ひとりの試合への意識、技術、コンディションが、とてもいい状態で試合に臨むことができたと思っています」と喜んだ。

橋本総業チームは大会前に合宿を行って臨み、1勝1敗。



「橋本総業ホールディングス」女子チームは、全勝で決勝トーナメントへ



「橋本総業」チームは4勝1敗で2位通過となった



「橋本総業ホールディングス」男子チームは、5勝3敗の4位で通過した

トータルで4勝1敗となりブルーブロック2位通過となった。最終日に島津製作所に敗れたものの、ダブルスでは勝利を挙げて一矢を報いた。井上監督は合宿を通して「(選手の)やれることが増えた」と手応えを感じつつも、上位チームに勝利するにはさらなる上達が必要と認識している。

1stステージで苦戦をしいられた男子チームは、2ndステージではシングルス2に福田創楽が復帰して3勝1敗。1st、2ndを通して5勝3敗となった。杉山監督は「1stステージは選手の怪我もあり厳しい戦いでしたが、2ndステージはチームの状態も良く士気も高く戦い抜くことができました」と無事決勝トーナメントの切符を手に入れている。

Tennis Japan League 2nd Stage

橋本総業ホールディングス 女子結果

1月25日(土)	橋本総業ホールディングス	3-0	ノアインドアステージ
S1	岡村 恭香	6-2 6-3	松田 鈴子
S2	坂詰 姫野	6-1 6-3	上田 らむ
D	森崎 可南子/小堀 桃子	6-4 7-5	中塚 桃子/伊藤 日和

26日(日)	橋本総業ホールディングス	3-0	リコー
S1	岡村 恭香	6-1 5-7 [10-6]	板谷 里音
S2	坂詰 姫野	6-0 6-2	大川 美佐
D	森崎 可南子/小堀 桃子	4-6 6-4 [10-2]	高橋 玲奈/谷井 涼香

Tennis Japan League 2nd Stage

橋本総業 女子結果

1月25日(土)	橋本総業	3-0	リコージャパン
S1	瀬間 詠里花	6-3 6-0	國瀬 舞
S2	小林 ほの香	6-0 7-6(4)	高木 翼
D	大前 綾希子/奥脇 莉音	6-1 6-0	岩岡 芹香/西野 さくら

26日(日)	橋本総業	1-2	島津製作所
S1	瀬間 詠里花	1-6 0-6	加治 遥
S2	小林 ほの香	1-6 4-6	山崎 郁美
D	大前 綾希子/奥脇 莉音	6-2 6-2	桑田 寛子/永田 杏里

Tennis Japan League 2nd Stage

橋本総業ホールディングス 男子結果

1月22日(水)	橋本総業ホールディングス	3-0	リコー
S1	デラニー ジェイク	6-0 7-5	大和田 秀俊
S2	福田 創楽	6-1 6-2	河野 甲斐
D	河内 一真/渡邊 聖太	6-4 7-5	齋藤 聖真/小林 雅哉

24日(金)	橋本総業ホールディングス	2-1	ONEDROP
S1	デラニー ジェイク	6-1 6-2	高橋 勇人
S2	福田 創楽	6-2 6-4	鈴木 昂
D	河内 一真/渡邊 聖太	6-2 6-7(9) [8-10]	野口 政勝/江原 弘泰

25日(土)	橋本総業ホールディングス	3-0	村田精工
S1	デラニー ジェイク	6-3 6-4	松村 亮太郎
S2	福田 創楽	6-3 6-2	高見澤 岳飛
D	河内 一真/渡邊 聖太	6-2 6-4	大植 駿/望月 滉太郎

26日(日)	橋本総業ホールディングス	1-2	イカイ
S1	デラニー ジェイク	6-7(5) 3-6	熊坂 拓哉
S2	福田 創楽	1-6 7-6(6) [10-12]	徳田 廉大
D	河内 一真/渡邊 聖太	6-1 6-3	住澤 大輔/辻 雄馬

Australian Open 2025

グランドスラム・全豪オープンに 渡邊聖太が本戦初出場!

1月に開催された全豪オープンで、世界ランク復 167 位となった渡邊聖太が初めてダブルス本戦に出場を果たした。渡邊は、「テニスの始めた時からの夢であるグランドスラムの舞台に立つことができとてもうれしかったです」と喜び、「初めてのグランドスラムでしたが緊張はせず、たくさんの日本人の方の応援のおかげで最初から最後まで楽しむことができました」と語る。結果は 40 位台の相手から 1 セットを奪ったものの 1 回戦敗退。「今まではグランドスラムに出場することが目標でしたが、今後はグランドスラムに定着できる選手を目指します。その場で勝たなければ意味がないと強く思いました」と、今後の目標が明確になった。

昨年から順調にランキングを上げた岡村恭香は、シングルスで 2021 年ぶりとなる全豪オープン予選に出場。グランドスラム予選に 3 度目の挑戦となったが 1 回戦で 133 位の選手に敗れた。しかし、今年の 1 月にキャリアハイを 181 位に更新し、久々にグランドスラム予選に戻ってこられたことは大きな自信となるだろう。

昨年の全米オープンで初めてシングルスでグランドスラムを戦った柴原瑛菜は、全豪オープン予選に出場し、逆転負けを喫した。ダブルスではクデルメトワと組んで本戦 2 回戦に進出している。



全豪オープンのコートでプレー。ボードにもしっかりと「SEITA WATANABE」の名前!

渡邊聖太(167位)のダブルス結果 パートナー 柚木武

	スコア	対戦相手 (国籍)
本戦 1 回戦	× 6-1 3-6 4-6	S.Gonzalez (MEX)/L.Miedler (AUT)



柴原はダブルスで第 11 シードだったが 2 回戦敗退となった

柴原瑛菜(139位)のシングルス結果

	スコア	対戦相手 (国籍)
本戦 1 回戦	× 6-1 3-6 0-6	Darya Astakhova (RUS)

柴原瑛菜(64位)のダブルス結果 パートナー V.Kudermetova

	スコア	対戦相手 (国籍)
本戦 2 回戦	× 1-6 5-7	X.Wang (CHN)/S.Zheng (CHN)
本戦 1 回戦	○ 6-3 6-1	P.Plipuech (THA)/C.Tsao (TPE)



岡村が環境を変えて再浮上! 次は勝利を期待したい

岡村恭香(181位)のシングルス結果

	スコア	対戦相手 (国籍)
本戦 1 回戦	× 6-7(6) 0-6	Anastasia Zakharova (RUS)(8)

森崎 可南子

Kanako Morisaki

ITF W50
DOUBLES
優勝



ITF W50
インド・ナビムバイ
12月16日~12月22日
ダブルス優勝

奥脇 莉音

Rinon Okuwaki

ITF W35
DOUBLES
優勝



ITF W35
ケニア・ナイロビ
12月30日~1月5日
ダブルス優勝

小林 ほの香

Honoka Kobayashi

ITF W15
DOUBLES
準優勝



ITF W15
インド・アーメダバード
12月23日~12月29日
ダブルス準優勝

テニス選手の 海外遠征エピソード

海外遠征という響きは素敵だけど、実は大変なことが多い。
選手たちにエピソードを教えてもらった。

ハプニング!

意外に大変!?



渡邊 聖太

**16週連続で遠征!
身体も気持ちも結構厳しい**

今週（日本リーグ2ndステージの週）が日本を含む遠征16週目で、これほど続いたのは初めてです。毎週試合があるのは、身体も気持ち的にも厳しいですね。すぐに負けた週は、なるべく外出するようにして気分を変えています。ランキングを上げるには試合数をこなさないとダメだとわかったので16週連続に挑戦しました。ケガもなく結果もある程度出て、自信になりました。



坂詰 姫野

準優勝した翌週に突然2日間寝込む

1年ぐらい苦しい時期が続いた後、オーストラリアの大会で良い形で準優勝できたことがありました。その時は疲れを感じず、夕方には次の大会へと移動したんです。翌々日に朝練をした後、熱が38度ぐらい出て2日間寝込みました。試合もキャンセルです。徐々に1週間戦い続けた時は気も張っていて、終わった時にアドレナリンも切れて、疲れが一気に出たのだと思います。このような発熱は初めてだったのでビックリしました。



森崎 可南子

**2時間睡眠で移動中に
疲弊するも試合に勝利!**

ヨーロッパ遠征の時、雨の影響で準決勝・決勝を土曜日に2試合行うことになりました。スポンサーの関係で、一番最後の試合となり、終わったのが夜の8時。次の大会は翌日の日曜日からだったので、すぐに移動。空港近くのホテルで2時間寝て、朝7時の飛行機に乗り、チェコに到着後に電車で移動して会場に着いたのは午後3時頃でした。それからアップして、試合に勝利。遠征で一番衝撃的な出来事でした（笑）。ヨーロッパの駅は階段が多く、遠征の荷物を持って移動するのが、すでに酷使した上に2時間睡眠の身体にはこたえました。



小堀 桃子

**試合が終わった日に移動
空港から会場に直行して試合**

韓国の大会で単複に出場した時のことです。ダブルス本戦の試合が終わり、その日に飛行機に乗って空港から会場に直行。その大会ではシングルスが予選からだったので、そのまま試合をするというハードスケジュールになったことがありました。飛行機は夜の便を取っていましたが、雨や試合の状況によっては遅くなって移動できない可能性もあったので、無事到着できてよかったです。



瀬間 詠里花

ドミニカ共和国では道端に銃弾!

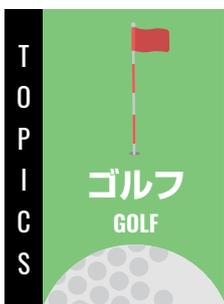
遠征先では白タクが多くて、料金が高くなったという話も聞きますが、一番物騒だと感じたのはドミニカ共和国です。コロナ後に行きましたが道端に銃弾が落ちていたり、銃のマークにダメと書かれた標識もありました。つまり、銃を持ち運ぶ可能性があるということです。移動したい時には、絶対に大会側が用意したトランスポート以外は使わないでとの指定もありました。幸い事件は起きませんでしたでしたが、危機感を持ちました。



大前 綾希子

**タクシーで夜2時に到着予定が朝。
拉致られた!?**

遠征の移動でつらいのは空港到着後に、さらにタクシーで数時間移動することです。下部大会だと現地に着くまでが大変なのです。タシュケントの空港からタクシーで5時間かかる会場がありました。空港を夜9時に出発し、2時に着くので起きていられると言われていましたが、1人だったのに寝ちゃったんです。起きたら外は明るくて、朝6時。怪しい建物の前に止まり体格のいい人が出てきて「拉致られた!」と焦りましたが、ベルボーイでした。ドライバーさんもどこかで止まって休んでいたんでしょ。私は爆睡していて、それにも気づかずに逆に幸せでした（笑）。



小島彩夏がミニツアーダブルス優勝

2024年12月24日に南茂原CCにて『ISPS HANDA ツアー!!』の『2024 ミックスダブルス ハンダクリスマスカップ』が開催。契約選手の小島彩夏が青井麻瑚と組んで、参加71ペアの頂点に立った。小島は「大学の先輩と組んで59で優勝しました!! 2024年最後の試合でいい締めくりができました」と喜んだ。



HASHIMOTO SOGYO COMMUNICATION

team hat Magazine

2025 VOL.16

発行: 橋本総業ホールディングス株式会社
編集: Tennis.jp
デザイン: 鷲見善弘(こうぼく堂)

本誌掲載の記事、写真など全ての無断掲載、複写を禁じます。